茂木ＰＬＡＭＯ社長が博士号

樹脂射出圧縮成形技術

ＰＬＡＭＯ（プラモ、埼玉県本庄市）の茂木淳志社長が博士（工学）の学位を取得し、このほど日本工業大学の埼玉キャンパス（埼玉県宮代町）で学位記を授与された。博士論文のタイトルは「射出成形金型内コア駆動による厚肉成形品の成形不良抑止に関する研究」。プラスチック射出圧縮成形の現象を学術的な視点から解析した。

茂木社長は「（博士取得を機に）当社が開発した樹脂内部のクラック（亀裂）やボイド（空洞）を防ぐ技術が、もっと幅広い分野に認識されることにつながれば」と喜んだ。

ＰＬＡＭＯは１９６１年に茂木社長の父親が創業。２００５年に社長を引き継ぎ、独自の射出圧縮成形技術を相次いで開発。埼玉県の「渋沢栄一ビジネス大賞」特別賞やプラスチック成形加工学会の「技術進歩賞」などを受賞した。

「開発技術を学術論文にまとめるべきだ」とのアドバイスを受け、16年に日本工大大学院の博士課程に社会人入学。工学研究科機械工学システム専攻の村田泰彦教授の指導を受け、社業に専念した期間も含めて8年をかけ、博士号取得を取得した。（さいたま）

学位記を手にする茂木社長